

## 論文内容の要旨

専攻名	経営意思決定 専攻	氏名	田中史王
題名	企業成長の過程 —企業家の人脈と成長を中心に—		
論文内容の要旨			
<p>序章では、最初に筆者の研究動機——筆者が日々の経営実務において「経営者の人間的側面（企業家資質）」の重要性を感じていることを提示し、本研究における問題の所在を明らかにしている。具体的には、「経営者の人間的側面（企業家資質）」の重要性を論証するための研究手法への批判的視座——伝統的又は近年の経済学的アプローチによる説明の限界性、一部の歴史家による分析に散見される小林一三への過度な英雄視観による考察といった問題点を挙げている。そして、これらを踏まえて本研究の目的、研究方法を提示している。</p> <p>第1章では、関連する学説の概観を行い、本研究で考察を行うための分析枠組みについて検討を行っている。Homansによる集団行動理論を手がかりにして、本研究の鍵概念となる「企業家活動」「企業家（企業家資質）」「企業家人脈」とその概念間の関係性で構成される分析枠組みを構築し、そこに「相互作用」「変容」という動的な視点を加えることで、本研究における視角を提示している。</p> <p>第2章では、小林が主導した箕有電軌の多角的事業の展開をそれぞれ分析・比較検討を行い、事業に対する姿勢が明らかに異なる2つの時期が存在していることを抽出した。具体的には、「大正初期までの【模索的・挑戦的な展開】」と「大正後期以降の【実験/研究的・慎重的な展開】」であり、それを主導した小林の事業への姿勢は、前者に対して【(先駆企業の存在) → ①「観察 → 模倣・追従」 → ②実行】、後者に対して【(先駆企業の存在) → ④「観察 → 仮説・実験 (→ 再構築)」 → ⑤ 実行】という一連の活動を明らかにしている。これにより、従来の研究では一面的にしか説明されてこなかった多角的事業の展開や小林の企業家活動に関して、事業に対する展開・姿勢が明らかに異なる複数の時期が存在していることが明らかになっている。</p> <p>第3章では、小林と交流のあった企業家のうち、中上川彦次郎と岩下清周を中心に形成された人脈について整理・分析を行い、それぞれの企業家人脈が小林の企業家活動や企業家資質の変容に大きく作用していることを明らかにしている。具体的には、第1に、中上川の三井銀行の経営改革等における「学識をもつ有能な人材を数多く採用・抜擢」により、</p>			

氏名	田中史王
----	------

小林及び小林の企業家活動に将来的に影響を与える企業家たちの多くが事業界へ登用・抜擢されていること、そして箕有電軌の創業に欠かせない岩下と小林の出会いもそこで発生していること、第2に岩下により形成された企業家人脈内の企業家たちによって企業家としてそもそも未成熟であった小林に企業家活動の機会が与えられ、箕有電軌の企業経営に対して多大な支援を行われたこと、そして岩下自身も北浜銀行事件によって失脚したことにより小林の人生観（企業家資質）を変容させる転機となったこと、第3にこの変容によって生まれた小林の独立独歩の姿勢により箕有電軌の経営体制を再構築するなどの企業家活動に展開していることを明らかにしている。さらに、この考察結果に対して、第1章で示した分析枠組みを用いて理論的な説明を与えている。

第4章では、筆者の実務経験を分析することで本研究の分析枠組みの有用性について論証を試みる同時に、その枠組みを用いて考察を行う研究手法の検証可能性について論証を試みている。具体的には、筆者の企業家活動、企業家資質及び人脈——すなわち、人脈を通じて直面した危機的状況及びそれを乗り切るための支援、さらには筆者の企業家（経営者）としての資質の成熟の様相について分析枠組みを用いて説明可能であることを示している。同時に、2つの事例間の比較し、その差異等を時系列に沿って考察することで、筆者の実務者としての現在の置かれている状況について明らかにしている。以上の論証作業を通じて、本研究の分析枠組みの有用性、及びその枠組みを用いた研究手法の検証可能性について明らかにしている。

終章では、これまでの考察結果について、序章で検討した枠組みへ統合して総括を行うとともに、本研究の意義・貢献を提示し、最後に今後の課題について言及している。その結果、従来のアプローチでは一面的にしか説明されてこなかった多角的事業の展開に対して、事業に対する姿勢（企業家活動）が明らかに異なる2つの時期が存在していること、そして、その企業家活動の背後（内側）にあった小林の企業家資質の変容、さらには小林に影響を与えた企業家人脈を、ひとつの枠組みの中で捉え、その一連のメカニズムについて整合的に説明することが可能になっている。

Appendix では、箕有電軌と同時期に近畿圏で企業成長・発展を遂げた競合会社について概観し、マクロ経済環境の影響（景気の動向）や各社の企業成長・発展の経緯やその特徴を整理している。これにより、各社の企業成長・発展はマクロ経済環境の影響だけではなく独自の成長・発展の契機を有していることが把握された。